



地元報道機関
県政記者クラブ

で配布

インターネットでの情報提供	
提供予定日	5月7日

平成19年 5月2日 県政記者クラブ配布資料			
担当課	担当	担当者	電話番号
畜産研究所	飛騨牛研究部	坂口慎一	0577-68-2226

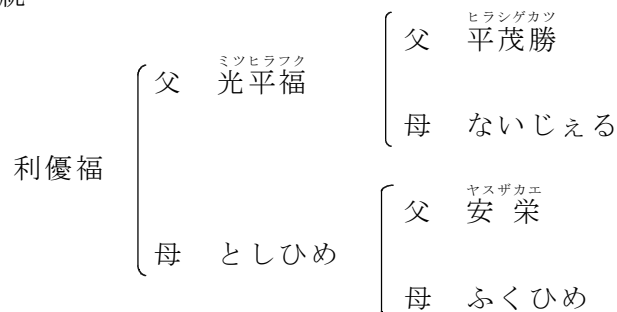
飛騨牛「利優福」が肉質調査検定で好成績を取得 ～次世代の有力種雄牛として期待～

岐阜県畜産研究所（所長 酒井謙司、高山市清見町）が次世代の「飛騨牛」ブランドを牽引する種雄牛として育成した「利優福」が、社団法人全国和牛登録協会の発表した肉質の検定結果（*現場後代検定）において、全国から選抜された79頭（平成18年度を通じて検定した分）の中で非常に優秀な成績であることが判明しましたのでお知らせいたします。飛騨牛生産現場は、すでに死亡した「安福」、老齢の「飛騨白清」につづく後継種雄牛の育成を強く要望しています。これに対し、畜産研究所は緊急課題として取り組んでおり、今回好成績を挙げた「利優福」は、上記の飛騨牛ブランドを確立した名種雄牛「安福」と「飛騨白清」の後継として期待しています。

*現場後代検定：種雄牛としての能力を検定するため、その子供（20頭程度）の肉質を調べ評価する方法

1 「利優福」のプロフィールと検定成績

- ・生年月日 H13.03.12
- ・所有者 岐阜県畜産研究所
- ・生産者 岐阜県高山市清見町 清水利彦
- ・血統



・検定結果

検定種雄牛	期待枝肉成績					
	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪	歩留基準	脂肪交雑
	kg	cm ²	cm	cm	%	*1
利優福	501.1	59.6	9.0	3.0	74.2	3.12
全国平均	439.7	54.8	7.6	2.3	74.0	2.20

* 1: 脂肪交雑は基準値: 5(最良)~0

* 期待枝肉成績: この種雄牛を使った場合に期待できる肉質や量を統計的に算出したもの。

* 枝肉重量: 牛(生体)から頭、皮、内臓等を取り去った後の重量

* ロース芯面積: どれだけ大きなロース(胸)肉が採れるかの指標

* バラ厚: 肋骨付近の肉(バラ)がどれだけ採れるかの指標

* 皮下脂肪: 皮下脂肪がどれだけの厚さで付いているかの指標

* 歩留基準: 生体からどれだけの肉(枝肉)がとれるかパーセントであらわしたもの。

* 脂肪交雑: 霜降り具合をあらわす基準。

上記の成績では、脂肪交雑(霜降り具合)は二位、枝肉重量は二位、バラ厚は一位と、肉量と肉質のバランスは最高です。

2 「利優福」の過去の受賞歴

「利優福」は5年に1度全国和牛能力共進会が主催する、和牛の品評会の第8回大会(平成14年岐阜県にて開催)で、各道府県から選抜された優秀な和牛の中から「若雄の部」(生後15~19ヶ月の部門)で優等賞5席に入賞しています。「利優福」は、「安福」の遺伝子を受け継いでおり、その当時から次世代を担う種雄牛として期待されていました。

3 「利優福」の種雄牛としての今後の利用

「安福」「飛驒白清」に代わる、飛驒牛生産の主力として期待されます。

* 優れた肉用牛の生産

肉質に優れ、肉量も豊富に採れる肉用牛の生産。今回の成績で、「利優福」の子供は肉質も優れ、また肉量も豊富に取れることが示されました。

* 繁殖用雌牛の生産

優れた肉用牛を多く産生するには、優れた雌牛が多く必要です。「利優福」は優れた肉用牛の母を生産することも期待されています。